

大野 實雄 教授 略歴

- 明治38年 9月10日 長野県飯田市に生まる。飯田中学を経て第二早
高卒業
- 昭和 2年 4月 早稲田大学法学部仏法科入学，同 3年10月高文
行政科，同 4年12月同司法科合格，同 5年 3月
卒業
- 昭和 5年 6月 司法官試補（東京地裁）
- 昭和 6年12月 判事（東京地裁），同23年 1月退官
- 昭和23年 4月 早稲田大学法学部教授，同51年 3月定年退職
- 昭和26年10月～27年 7月 教務部長
- 昭和33年10月～39年10月 図書館長
- 昭和34年 4月～44年 3月 郵政省簡易生命保険郵便年金審査委員
- 昭和34年 6月～35年 9月 文部省学術奨励審議会委員
- 昭和35年 1月～ 日仏法学会理事
- 昭和35年 4月～35年 7月 フランスに滞在，パリ法院で開催されたヨーロ
ッパ型商事会社法制定のための国際会議にオブ
ザーバーとして出席
- 昭和37年12月26日～ 体育局軟式庭球部長として選手と共に台湾に遠
38年 1月 9日 征
- 昭和38年 5月～42年 5月 日本図書館協会理事
- 昭和39年 4月～40年11月 大学基準協会専門教育研究委員会法学部関係分
科会委員
- 昭和39年 4月～41年 3月 日本海法学会，同航空法学会理事
- 昭和39年 5月～40年 3月 文部省大学基準等研究協議会委員
- 昭和39年9月9日～ ローマで開催された国際図書館連合（I F L A）
39年 9月28日 第30回理事会に日本図書館協会代表として出席
- 昭和39年 9月～41年 3月 第一法学部長

昭和40年3月～41年12月	UNESCO, International Advisory Committee on Bibliography, Documentation and Terminology 委員
昭和40年5月～46年9月	文部省大学図書館視察委員
昭和42年5月～56年3月	日本図書館協会参与
昭和42年6月～50年3月	文部省大学設置審議会（大学基準分科会）委員
昭和42年5月～50年3月	同法学・政治学視察委員
昭和42年7月～44年3月	大学基準協会大学教育研究委員会法学部関係部会委員
昭和45年10月～47年9月	比較法研究所長
昭和46年4月～	日本公証法学会理事長
昭和51年4月	中京大学法学部教授，同56年3月定年退職

著 書 論 文 目 録

書名（論文名）	発行年月日	発行所（掲載雑誌の名称）
労働株の理論	昭和25年10月	巖松堂
企業および経営の法学	昭和34年9月	成文堂
商法研究 第1巻	昭和32年4月	敬文堂
〃 第2巻	昭和35年7月	〃
〃 第3巻	昭和38年9月	〃
商法講義 上・下	昭和42年11月	成文堂
株式会社の分割と分割合併	昭和45年11月	財政経済弘報社
企業法の諸問題	昭和45年11月	成文堂
商 法（総則・会社法）	昭和49年3月	〃
〃（手形法・商行為法）	昭和50年3月	〃
新版 法学概論	昭和42年9月	広文堂
ヨーロッパ会社法案 共著	昭和49年8月	国際商事法研究所

フランス会社法	共訳	昭和50年9月	国際商事法研究所
注釈フランス会社法	第1巻	昭和51年9月	成文堂
(共著)	第2巻	昭和53年9月	〃

論文（上記以外の論文）

手形上の請求と権利の濫用		昭和46年3月	早稲田法学 V. 46, No.2
手形取引と商法 265 条		昭和48年5月	金融法務事情 No. 689
株式会社の設立無効と 定款の認証		昭和46年5月	公証法学 No. 2
退職役員に対する 慰労金の贈呈		昭和48年10月	東洋信託代行リポート No. 19
会社分割規定の 創設と問題点		昭和50年3月	税経通信 50年5月号
寄附行為と会社の 目的の範囲		昭和50年7月	青林新社 “会社法の基礎” 所収
合名会社における信用出資		昭和52年6月	中京法学 12巻1号
株式会社の目的 一定款目 的とその他の目的一		昭和53年12月	〃 13巻3号
企業集団の法的性格		昭和54年11月	〃 14巻2号
会社の国籍 一多国籍企業 との関連において一		昭和55年3月	〃 14巻4号
企業集団組合論の展開		昭和55年11月	〃 15巻2号

柳瀬良幹教授略歴

- 明治38年11月17日 和歌山県にて出生
- 大正12年3月 和歌山県立和歌山中学校卒業
- 大正15年3月 大阪高等学校卒業
- 昭和4年3月 東京帝国大学法学部政治学科卒業
- 昭和4年4月 東京帝国大学法学部大学院入学
- 昭和5年3月 同 退学
- 昭和5年4月 東京帝国大学法学部助手に任命さる
- 昭和7年5月 退官
- 昭和8年4月 東北帝国大学法文学部助教授に任命さる
- 昭和16年5月 東北帝国大学法文学部教授に任命さる。行政法学講座担任
- 昭和17年3月 高等試験臨時委員を命ぜらる。以後18年2月及び21年10月に同再任
- 昭和24年8月 司法試験考査委員を命ぜらる。以後、32年まで各年及び37年に同再任
- 昭和25年5月 日本公法学会理事に就任。現在に到る
- 昭和26年4月 金沢大学法文学部講師を併任。任期1年
- 昭和27年4月 東北大学評議員を併任。任期3年
- 昭和27年9月 法学博士の学位を受く
- 昭和28年4月 東北大学法学部教授に任命さる
東北大学大学院法学研究科担当
- 昭和30年4月 東京都立大学法経学部講師を併任。以後、35年まで各年に同上再任
- 昭和30年5月 東北大学学生部長・評議員を併任。任期3年
法制審議会行政訴訟部会委員を併任。以後、33年まで各年に再任

昭和31年 3月	イギリス・フランス・西ドイツ・ベルギー・オランダ・オーストリア・スイス及びイタリーの各国へ出張
昭和36年 4月	東北大学法学部長・東北大学大学院法学研究科長・東北大学評議員を併任。任期2年
昭和38年 4月	同上再任。任期1年
昭和44年 3月	退官
昭和44年 4月	上智大学法学部教授
昭和51年 3月	停年退職
昭和51年 4月	中京大学法学部教授
昭和52年11月	日本学士院会員
昭和56年 3月	停年退職

教育研究上の業績一覧

行政法の基礎理論 (一)	昭和15年	弘文堂
〃 (二)	昭和16年	〃
行政法における公法と私法	昭和18年	有斐閣
行政行為の瑕疵	〃	河出書房
人権の歴史	昭和24年	明治書院
行政法	昭和25年	角川書店
行政法講義	昭和26年	良書普及会
憲法と地方自治	昭和29年	有信堂
地方団体に対する国の権力	〃	日本評論社
行政法教科書	昭和33年	有斐閣
公用負担法	昭和35年	〃
元首と機関	昭和44年	〃
自治法と土地法	〃	有信堂
「国事」と「国政」	昭和44年12月	自治研究45—12

土地収用の協議	昭和45年10月	上智法学論集14—1
裁判官の任期と再任	昭和46年6月	ジュリスト 480
地方自治の制度的保障	昭和46年12月	自治研究47—12
「べし」の見方	昭和47年1月	上智法学論集15—2
自治立法・行政権の範囲と限界	〃	都市問題63—1
「住民参加」の定義	昭和49年2月	自治研究50—2
土地の国有と憲法	昭和49年10月	公法研究36
法の解釈についての覚書	昭和48年1月	自治研究49—1
政治禁制昔と今	昭和50年4月	学会月報 727
憲法放れの憲法論	昭和51年11月	自治研究52—11
競売と先買権	昭和52年4月	自治研究53—4
地方自治30年の評価	昭和52年	自治法30周年記念論文集
行政指導小言	昭和53年7月	自治研究54—7
国家緊急権の各種	昭和54年	公法研究41
行政法の原理と思想	昭和55年6月	法学44—2
明治憲法の解釈と理論	昭和56年3月	歴史公論 7—3

退職記念号発刊にあたって

本学教授大野實雄、柳瀬良幹両先生は去る昭和56年3月末日、定年退職されました。ここに法学部教授会決議をもって退職記念号を発刊いたします。ささやかながら同誌からわれわれの心からの愛惜の意をおくみとり頂ければ幸いです。

大野先生は明治38年長野県に出生、昭和5年早稲田大学法学部卒業後、裁判官を経て昭和23年早稲田大学法学部教授に就任、同51年3月定年退職後、本学法学部ならびに大学院法学研究科教授として赴任されました。先生は『労働株の理論』（昭和25年）、『企業法の諸問題』（昭和45年）のほか多数の著書論文を有するのみならず、内外の公職を歴任されて、斯学の権威として令名つとに高かったことは改めていうまでもありません。にもかかわらず、本学赴任後も少しも高ぶらずつねに温容をもって私達に接して下さいました。教職員一同の敬慕するゆえんであります。

一方、柳瀬先生は明治38年和歌山県にて出生、東京大学法学部卒業後同学部助手を経て昭和16年東北帝国大学法文学部教授に就任、昭和44年退官。その後上智大学を経て昭和51年4月本学教授（学部・大学院併任）として赴任されました。先生は『行政法の基礎理論(1)(2)』（昭和15～16年）、『行政法教科書三訂版』（昭和44年）ほか多数の著作を擁し斯学の権威であられたことは歴任された学内外の要職からも容易に推察できるところであります。にもかかわらず本学赴任後もいささかも謙虚な態度をくずすことなく、ときに巧まざるユーモアをもって私達に接して下さいました。大野先生同様、私達の敬慕するゆえんであります。

両先生の御助力・御指導・御鞭撻なしには、本学大学院法学研究科が昭和51年に発足し、間もなく完成を見るといった状況に立ち至れたとはとうてい考えられません。ここに御退職にあたり、改めて厚く御礼申し上げます。どうかいつまでもお元気で斯学の発展のためにお尽力下さるようお願いして記念号発刊のことばのむすびといたします。

1981年6月吉日

法学部長 庭山英雄